広報うわじま７月号　No.156
平成30年７月１日発行

uwajima Smile news 2018

よしを民芸店（2代目 宇都宮 よしを さん）

父から受け継いだ、宇和島の伝統

父である先代の跡を継ぎ、牛鬼張り子や八ツ鹿を作るのは、「えひめ伝統工芸士」の宇都宮さん。小学生のころから父の手伝いを始め、高校では定時制に通い、日中のほとんどを父と過ごし技術と伝統を受け継いできました。

最盛期には、家族総出で製作にあたっていましたが、現在は宇都宮さん１人が全行程を担っています。宇都宮さんが手がける牛鬼張り子は、型枠に和紙を何枚も張りあわせ、着色と乾燥を重ねてできあがります。ひげには馬の毛が使われ、注文が入ってから製作に取りかかります。最近では、丈夫で見た目も綺麗に仕上がるプラスチック製や、価格も安く手に入る段ボール製の製品が普及してきました。しかし、宇都宮さんは和紙での製法にこだわり続けています。

和紙へのこだわりについて宇都宮さんは、「牛鬼の模様や素材などには、１つひとつに意味が込められています。紙は「裂ける」ことから、「避ける」という意味にかけられ、それが魔除けや厄除けということにつながっているんです。意外と皆さん知らないんですよね」と話していました。

うわじま牛鬼まつりの開催を前に、宇都宮さんに祭りに対する思いを聞くと、「牛鬼でまちが盛り上がることはうれしく思います」と話してくれました。しかし一方で、祭りの派手さや形ばかりが注目され、なぜ和紙が使われているのかなど、牛鬼本来の伝統を知らない世代が増えてきているのではないかと心配することもあるようです。

今後は、技術面だけではなく、先代から受け継いだ「形だけではない牛鬼に込められた意味」なども、若い世代の人たちに伝えていきたいそうです。

発行：宇和島市役所
編集：市長公室シティセールス推進係
〒798－8601 愛媛県宇和島市曙町１番地 ☎0895－24－1111
ホームページ：http://www.city.uwajima.ehime.jp/

有料広告